

before

リメイク前は、傷も多く汚れ、他の棚類に埋もれるように置かれていた。鍵がなくなり、かからないため、重要な薬品を保管することができなかった。



after



戸・引き出し・取っ手等を外して、全体を研磨し、塗装をし直した。



昔の町医者診察室を思わせるやさしい雰囲気がいい。

使わなくなった印鑑ケースの鍵に合わせて鍵穴を加工。鍵がかかようになった。



入賞作品

## レトロな薬品庫は保健室にお似合い

創立百二十六年を迎える本校の保健室に、昭和感漂う木製の薬品庫があります。その薬品庫は、昨年夏に復活しました。

きっかけは、養護教諭からの相談でした。「傷だらけでガラスもきたないし、鍵も壊れていて安全に保管できない。買い換えるには高額だし、木製のこの薬品庫も捨てがたいんですよ。」と。相談を受けた事務担当は、「教頭先生に頼んだら直してくれるかも。」と私の元へやってきました。

その棚を見て私は、このまま捨てられてしまうのはとても僥倖がたく思えました。そこで、扉や引き出しを一度外し、表面を研磨・塗装、ガラスは磨き、使わなくなった印鑑ケースの鍵に合わせて鍵穴を加工、鍵もかかるようになりました。リメイクされた薬品庫を見て、養護教諭は「私が個人的にほしくらいです。」と喜んでくれました。

今では、薬品庫として立派に機能するだけでなく、レトロ感いっぱい雰囲気は、あたたかくやさしい保健室を演出してくれています。

熊本県 古家慎也さん